

「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり 支援プログラム」の全国レベルでの 普及を目的とした実践研究

見 玉 桂 子 ・ 古 賀 誉 章
沼 田 恭 子 ・ 下 垣 光

Nationwide diffusion of the “institutional environment creation support program catering to elderly people with dementia”

Keiko Kodama · Takaaki Koga · Kyoko Numata · Hikaru Shimogaki

Abstract: The “institutional environment creation support program catering to elderly people with dementia” aims first to change the physical environment of institutions, and from there cause a ripple effect generating improvements in care and management environments, thereby aiming for the betterment of the lives of elderly people with dementia. The aim of this study is to construct a support structure in order to facilitate nationwide diffusion of the “institutional environment creation support program catering to elderly people with dementia”. In this academic year, the institutional environment creation manual was revised, a website featuring methods of institutional environment creation and case studies was constructed, institutional environment creation training was developed and practical research on institutional environment creation was conducted at several sites in Japan and Taiwan. Through these activities, training and evaluation of the effectiveness of environment creation related to the “institutional environment creation support program catering to elderly people with dementia” were implemented.

Key Words: Dementia care environment; Institutional environment creation support program; Institutional environment creation training; Institutional environment creation practical research

「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」は、施設の物理的環境をまず変えることにより、ケアや運営的環境に波及して、認知症高齢者の生活の質の向上を目標にしている。本研究は、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」の全国レベルでの普及のために、支援体勢の構築を目的としている。本年度は、施設環境づくりマニュアルの改訂、施設環境づくりの手法や実践事例に関するウェブサイトの構築、施設環境づくり研修の開発、施設環境づくり実践研究を日本や台湾など数カ所で実施した。これらの実施を通じて、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」に基づく研修や環境づくり実践の有効性の評価を行った。

キーワード： 認知症ケア環境、施設環境づくり支援プログラム、施設環境づくり研修、施設環境づくり実践研究

I. 本研究の目的

1. 研究の背景

認知症ケアにおける環境の重要性が認識され、家庭的な雰囲気の小規模な環境のもとで、できるだけ生活の継続性を大切にされたケアの重要性が認識されるようになってきた。わが国では、1997年にグループホームが、2003年に個室・ユニットケアの特別養護老人ホームが制度化され、認知症高齢者に配慮した環境の施設が普及しつつある。しかし、多様なニーズを持つ個々の認知症高齢者に環境を活かした暮らしやケアを提供する手法について、ケア現場からの要請は高いが、その手法はまだ普及に至っていない。

正式名称を「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」と呼ぶ本プログラムは、施設の社会的・物理的・運営的環境を視野に入れ、まず目に見える物理的環境を変えることにより、ケアや運営環境の改善につなげ、認知症高齢者にふさわしいケアと暮らしの実現を目標としている。2000年より本プログラムの開発・評価研究と実践研究が継続的に進められ、従来型施設あるいはユニットケアなどの新たな施設のいずれであっても、本プログラムが施設環境を変え、職員の意識を変え、認知症高齢者など施設利用者の満足度や生活の質を向上させることが幅広く検証されてきた。

本プログラムの認知症ケア分野への普及について、6ステップから構成されるプログラム全体を本格的に導入した施設は、首都圏や関西圏に留まっているが、プログラムの一部である「認知症高齢者への環境支援指針」は、国や自治体の認知症介護者研修の一部に取り入れられ、広く普及している。

2. 施設環境づくりの支援態勢の構築

認知症ケア現場からの要請に応じて、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」の全国レベルでの普及を目的として、施設環境づくり支援態勢の構築が本研究の目的である。表1に示すように、施設環境づくり支援態勢として、誰でもがアクセスできる「Ⅰ. 施設環境づくり支援ツール」、専門的な支援を提供する「Ⅱ. 施設環境づくり専門家チームによる支援」、さらにこれらを支える「Ⅲ. 専門家組織の養成」の3領域の構築を目標としている。

「Ⅰ. 施設環境づくり支援ツール」を構成する環境づくりに活用できる資源の中で、本年度取り組むのは、①施設環境づくりマニュアル、②各ステップの支援ツール、③ウェブサイト活用による情報提供、これらの内容の充実である。

「Ⅱ. 施設環境づくり専門家チームによる支援」は、「Ⅱ-1環境づくり研修・教育」と「Ⅱ-2コンサルテーション」から構成される。本年度は、前述した「施設環境づくり支援プログラム」を適用して、「①環境づくり入門研修」、「②環境づくり基礎研修」、「③環境づくりリーダー養成研修」を開発してその有効性を検証すると共に、環境づくりの中心になる環境づくりリーダーの養成を広く行う。

「Ⅲ. 専門家組織の養成」に関して、認知症ケア環境の専門家はまだ限られており、日本各地で認知症ケア環境の専門家にアクセスすることは難しい状況にある。日本社会事業大学児玉

表1 施設環境づくりの支援態勢の構築

I 施設環境づくり支援ツール	II 施設環境づくり専門家チームによる支援	
	II-1 環境づくり研修・教育	II-2 コンサルテーション
① 施設環境づくりマニュアル	① 環境づくり入門研修	① 質の高い施設環境づくり
② 各ステップごとの支援ツール ・指針や各種ワークシート	② 環境づくり基礎研修	② 設計を伴う施設環境づくり
③ ウェブサイトによる環境づくり ・ http://www.kankyozukuri.com/ ・ http://network.kankyozukuri.com/	③ 環境づくりリーダー養成研修	③ 質の高い認知症ケアの実践
④ 施設環境づくり実践事例集	④ 環境づくり管理職研修	④ 施設環境づくりを通じた職員教育
⑤ 施設環境のインテリアデザイン (CD版)	⑤ 大学・大学院におけるケア環境教育	⑤ ケアと環境の調査・評価
⑥ 関連図書リスト	⑥ ケア環境のインテリア研修	
	III 専門家組織の養成	
	① ケアと環境研究会 http://www.kankyozukuri.com/	
	② ケア環境づくり全国ネットワーク http://network.kankyozukuri.com/	
	③ 調査等の専門組織	

研究室を中心として首都圏や関西圏の研究者や実践家から構成される「ケアと環境研究会」は、施設環境づくり支援プログラムの開発研究や実践に貢献してきた。本年度の研究では、日本建築学会福祉施設小委員会等と連携をして、「ケア環境づくり全国ネットワーク」とそのウェブサイト構築を図り、認知症ケア環境に関心のある人がアクセスしやすい状況を作る。

II. 本研究の成果

1. 「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」に基づく施設環境づくりマニュアルの改訂

(1) プログラムの特徴と改訂の必要性

「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」は、介護職員が中心となり多様な人が参加して進めることを前提に6ステップから構成され、表2に示すように豊かな発想やコミュニケーションを支援する豊富なツールが用意されている点が特徴である。

これまで、「認知症高齢者への環境支援指針 (PEAP) を用いた施設環境づくり実践ハンドブック Part1～4 (2004～2007)」^{1)～4)}をテキストとして施設環境づくり実践や研修を進めてきたが、近年の実践研究の蓄積を反映して、マニュアル全体の見直しとステップ4以降の後半部分の充実が必要となってきた。

さらに、入手しやすいマニュアルが欲しいというケア現場からの声に応えるために、改訂したマニュアルをさらに分かりやすくして、これまでの環境づくり実践事例を加えた実践的なマニュアル刊行も求められている。

(2) 6ステップから構成されるプログラムの概要

「ステップ1：ケアと環境への気づきを高める」では、認知症高齢者の適応に重要な8つの次元を示す「認知症高齢者への環境支援指針 (PEAP 日本版3)」の学習を通じて、認知症ケアと環境のかかわりについて視点の共有を図る。施設環境づくりの環境課題の整理、計画づくり、評価等このプログラム全体を通じて、PEAPが認知症高齢者の立場に立ったケアの視点を共有する重要な柱と位置づけられている。

表2 認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラムを構成するステップとツール

	ステップ	プロセス	ツール
1	ケアと環境への気づきを高める	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症ケアと環境を学ぶ ● 自施設の環境について意見交換 ◎ 施設環境の現状評価 	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症高齢者への環境支援指針 (PEAP 日本版3) ◎ 多面的施設環境評価尺度等
2	環境の課題をとらえて、目標を定める	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設環境を点検する ● 課題の整理 ● 施設環境づくりの目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ● キャプション評価法 ● PEAPに基づくキャプション・カードの分類シート ● 目標設定シート
3	環境づくりの計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> ● 暮らし方シミュレーション ● 改善案の収集・整理・選択 ○ 中間発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 暮らし方シミュレーションシート ● 環境づくりアイデアシート
4	環境づくりを実施する	<ul style="list-style-type: none"> ● 改善案の実施条件を検討 ● 環境づくりを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施条件の検討シート ○ 環境づくり、Com 実践事例集
5	新しい環境を暮らしとケアに活かす	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい環境を暮らしに活かす ● 新しい環境をケアプランに活かす 	○ 環境づくりの活用状況把握シート
6	環境づくりを振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境づくりの実践の振り返り ◎ 環境づくりの効果の検証 ● まとめの報告会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境づくり振り返りシート ◎ 多面的施設環境評価尺度等 環境づくりの効果に関する調査表 環境づくりへの参加状況調査表等

● 6ステップの環境づくりで取り組む基本項目 ◎環境づくりの効果の検証に必要項目

「ステップ2：環境の課題をとらえて、目標を定める」では、施設環境の写真にコメントを添えるという「キャプション評価法」を用いて、できるだけ多様な参加者により施設の点検を行い、キャプションカードの整理を通じて、環境づくりの場所や課題を絞り、環境づくりの目標を定める。このステップで、多様な立場の職員、入居者、家族、ボランティア等多様な参加者の視点で施設の課題をとらえるように意図されている。

「ステップ3：環境づくりの計画を立てる」では、新たな環境のもとでの暮らしをイメージして、実現するための環境づくりのアイデアを物理的・社会的・運営的環境について広く出していく。この際には、「暮らし方シミュレーションシート」や「環境づくりアイデアシート」が豊かな発想を支援する。

「ステップ4：環境づくりを実施する」では、ステップ3で出されたアイデアを、「実施条件の検討シート」を用いて、整理を行い、取り組みやすく認知症高齢者への効果が期待できるものから実施に移していく。取り組みが難しいものについては、次年度以降の事業計画などで検討していく。

「ステップ5：新しい環境を暮らしとケアに活かす」では、新たな環境を作っただけでは認知症高齢者自らがそれを活かすことは難しいので、暮らしやケアプランに活かすように身近にいる介護者が積極的に取り組むように意図されている。

「ステップ6：環境づくりを振り返る」は、施設環境づくりの実践の振り返りと環境づくりの効果の検証から構成される。施設環境づくりの実践の振り返りには、これまで使用してきた各種シートや取り組み内容や認知症高齢者への効果をコンパクトにまとめる「環境づくりの振り返りシート」が有効である。環境づくりの検証には、環境の変化、ケアの変化、認知症高齢者を初めとする利用者の変化を捉える評価尺度やチェックリストが整備されている。これらに

より、環境づくり前に比べて、ねらった効果が得られたか、残された課題は何かを明らかにして、その結果を次につなげていくことが可能となっている。

今回の改訂では、環境づくりシート全体の見直しや「PEAPにもとづくキャプションカードの分類シート」、「実施条件の検討シート」、「環境づくりの活用状況把握シート」、「環境づくり振り返りシート」が新たに加えられた。環境づくりの評価指標に関しても見直しや充実が図られた。この改訂を踏まえて、さらに分かりやすくして、これまでの環境づくり実践を加えた「PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル」5)の刊行を行った。

2. 「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」にもとづく研修の開発と評価

本研究では、「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」にもとづく研修プログラムを開発して、その効果を確認することが目的のひとつである。さらに研修を通じて、施設環境づくりを進められる人材の育成につながることを期待される。

(1) 研修の種類と内容

研修の種類として、入門研修、基礎研修、リーダー養成研修の3種類のプログラムの開発または従来のものを見直しを行った(表3)。

入門研修は、施設環境づくりステップ1にあたる認知症ケアと環境の基本を「認知症高齢者への環境支援指針(PEAP日本版3)」の講義により、学習を進める。

基礎研修は、施設環境づくりステップ1～3についてコンパクトに学び、環境づくりの視点

表3 施設環境づくり支援プログラムに基づく研修

	基本カリキュラム	研修事例 ¹⁾
入門研修	形式：講義(1～2時間) 目標・内容：認知症高齢者への環境支援指針(PEAP)の学習を通じて、認知症ケアに環境を活かす視点を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 台湾国立雲林科技大学等と連携した研修会(2009.9.18～,22) 栃木県医師会による研修会(2009.11.29) 熊本県益城郡グループホーム部会と連携した入門研修(2009.12.14)
基礎研修	形式：講義＋演習(5～10時間) 目標：自施設で環境づくりができるように、環境づくりの視点と課題解決の手法をコンパクトに学ぶ。 内容：施設環境づくりのステップ1～3のコンパクト版を使用。自施設のキャプション評価を事前に用意して、それに基づき、環境課題の整理、環境づくりの目標設定、環境改善の提案の手法をグループワークで学ぶ。成果の発表を行い、講師が講評を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋市社会福祉協議会による基礎研修会(2009.11.16) 熊本県益城郡グループホーム部会と連携した基礎研修(2010.3.8) 練馬区介護人材育成・研修センターによる基礎研修(2010.5～7の間2回)
リーダー養成研修	形式：講義＋演習(5～10時間) 目標：自施設で環境づくりができるように、環境づくりの視点と課題解決の手法をコンパクトに学ぶ。 内容：施設環境づくりのステップ1～3のコンパクト版を使用。自施設のキャプション評価を事前に用意して、それに基づき、環境課題の整理、環境づくりの目標設定、環境改善の提案の手法をグループワークで学ぶ。成果の発表を行い、講師が講評を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 日本建築学会福祉施設小委員会と連携した研修会(2009.6に3回実施) 練馬区介護人材育成・研修センターによる応用研修(2010.9～2011.2に6回実施)

1) 2009～2010年の研究期間中に実施したものとそれ以前も含めて研修の事例は、<http://www.kankyozukuri.com/>に掲載している。

や手法を講義と演習により学習して、各自の施設で取り組めるようにすることを目指している。事前にキャプション評価法を用いて、自施設の環境課題の把握を行って参加することが効果的である。

リーダー養成研修は、施設環境づくりステップ1～6の演習や環境づくり実践施設の見学を踏まえて、小規模な環境づくり実践を研修期間中に行う。講義＋演習＋施設見学＋実践を通じて、施設環境づくりのリーダーとしての知識とスキルを身につけることを目的とする。

(2) 研修の実施と評価

3種類の研修は、栃木、東京、名古屋、熊本、台湾の地域で実施され、この研修の受講者により、各地で環境づくり実践に発展している(表3)。研修にあたっては、事前調査で研修への期待や環境づくり経験の把握、事後評価で研修内容への理解や環境づくりの障害になること等を把握した。表4にその一部をまとめた。

「PEAPが理解できたか」、「環境づくりを具体的にイメージできたか」、「環境づくりの手法は自施設で役立つか」に関しては全般に高い評価がなされているが、「研修の内容を職場に伝えられるか」については若干評価が低くなっており、伝えやすくする工夫が求められる。「環境づくりの経験の有無」に関して、過半数の参加者が身近な工夫や中には浴室などの改修も経験しており、環境づくりへの関心をしっかり持ち研修に参加しているといえる。これまで研修参加者は、特養職員が中心であったが、グループホームやデイサービスに広がっている。

台湾での研修データは高雄市と雲林科技大学の2カ所で実施されたものであり、高齢者施設環境に関する研修の一環として、ステップ1に関する日本で使用しているパワーポイントや資料を中国語に翻訳して実施された。PEAPに関しては日本と変わらない高い理解が得られた。環境づくりへの障害に関しては、「費用の捻出」、「施設の狭さ」、「環境づくりの情報不足」が上位に上げられ、業務の負担が増えるといったことはそれほど問題にはされていない。自由記述でも大変関心の高さが示されており、これから高齢化を迎えるアジアの国々でも、施設環境づくりプログラムの必要性や有効性が示唆された。

3. 施設環境づくり支援ウェブサイトの構築

認知症高齢者に配慮した環境づくりの情報を発信する「環境づくりウェブサイト」の更新と「ケア環境づくり全国ネットワーク」の新規開設を本年度行った(表5)。

1) 施設環境づくりウェブサイトの追加更新

このウェブサイトは認知症ケアと環境をテーマに、施設環境づくりに関するプログラムや実践事例、住まいの工夫とまちづくり、研修・セミナー、関連資料など豊富な内容から構成される他に例のないサイトであり、毎日30件程度のアクセスが記録されている。施設環境づくりに必要な各種シートなどはここからダウンロードが可能であり、施設環境づくりの研修や実践には不可欠なサイトとなっている。本年度は、ツールや実践事例の追加更新を行った。

2) ケア環境づくり全国ネットワークの開設

認知症ケア環境の専門家はまだ限られており、どこにどのような人がいるかを把握することは一般的に難しい。日本建築学会や日本認知症ケア学会で活躍する認知症ケア環境の専門家か

表4 施設環境づくり研修参加者の状況

	名古屋基礎研修 (43名)	練馬基礎研修 (23名)	熊本入門研修 (128名)	熊本基礎研修 (28名)	台湾入門研修 (149名)
PEAPを理解できた	81.3	95.6	94.6	—	83.2
環境づくりを具体的にイメージ できた	83.7	91.3	—	—	—
研修の内容を職員に伝えられる	62.7	65.2	68.0	82.2	—
環境づくりの手法は、自施設に 役立つ	65.1	91.3	87.2	100.0	—
環境づくりの経験がある	51.1	69.6	69.5	53.6	—
[環境づくりの障害になること]					
1) 大きな障害はない	—	—	—	10.7	2.0
2) 管理職の理解が得にくい	—	—	—	10.7	30.8
3) 職員の理解が得にくい	—	—	—	28.6	17.4
4) 業務の負担が増える	—	—	—	32.1	27.5
5) 費用の捻出	—	—	—	53.6	73.1
6) 施設が老朽化	—	—	—	21.4	35.5
7) 施設が狭い	—	—	—	17.9	65.7
8) 取り組み方が分からない	—	—	—	10.7	22.8
9) 環境づくりに関する情報が 不足している	—	—	—	28.6	49.6
10) 入居者の負担	—	—	—	28.6	14.7
11) その他	—	—	—	3.6	5.3
[施設の種類]					
1) 特養・老健	79.0	43.3	33.4	35.7	—
2) グループホーム等	2.3	17.4	50.0	60.7	—
3) デイサービス	9.3	30.4	8.7	10.7	—
4) その他	9.4	8.7	7.9	10.7	—
[職種]					
1) 介護職員	—	75.0	43.6	46.4	30.8
2) 看護師	—	4.2	9.4	0.0	
3) 相談職	—	16.7	5.5	7.1	
4) 管理職	—	0.0	18.8	21.4	44.9
5) 介護支援専門員	—	4.2	20.3	35.7	0.0
6) その他	—	0.0	3.1	3.6	24.3

名古屋基礎研修：ステップ1～3を6時間で実施。キャプション評価も行う。

練馬基礎研修：ステップ1～3を2回に分けて6時間実施。キャプション評価も行う。

熊本入門研修：ステップ1と2の一部を演習を含めて4時間実施。

熊本基礎研修：ステップ1～3を5時間で実施。キャプション評価も行う。

台湾入門研修：高齢者の施設環境の研修会の中で、ステップ1について2時間講義。

参加者は高雄市と国立雲林科技大学の2カ所の合計。

らなるネットワークを構築して、地域別に紹介を行った。また、認知症高齢者へのケア環境づくりの領域の広がりを示すために、調査研究、研修・ワークショップ・教育、現場と協働する環境づくり実践、ケア環境の計画・設計・提案に、メンバーの業績を分類してビジュアルに示した。今後、構成メンバーを増やして、引き続いて充実を図る予定である。

表5 施設環境づくりを支援するウェブサイトの概要

環境づくりウェブサイト http://www.kankyozukuri.com/	ケア環境づくり全国ネットワーク http://network.kankyozukuri.com/
<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ケアと環境研究会 ・認知症高齢者への住まいの工夫研究会 2. 認知症高齢者に配慮した施設環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・6ステップのプログラム ・実践ハンドブック ・環境づくりのツール ・ケア環境のインテリア ・実践事例集 3. 住まいの工夫とまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・住まいの工夫とは（準備中） ・認知症の人が安心して住めるまちづくり 4. 研修・セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・環境づくり研修・教育 ・環境づくりセミナー ・海外での研修・セミナー 5. 関連資料など <ul style="list-style-type: none"> ・役立つ参考図書 ・環境づくりの実践研究の成果 ・リンク集 ・ダウンロード集 6. お知らせ <ul style="list-style-type: none"> ・環境づくりを支援しています ・環境づくり研修・セミナー 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国各地の専門家のプロフィール <ul style="list-style-type: none"> ・北海道 ・東北 ・関東 ・中部 ・近畿 ・九州 2. ケア環境づくりとは <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究 ・ケア環境に関する研修・ワークショップ ・ケア環境に関する教育 ・ケア現場と協働で進める環境づくり実践 ・ケア環境の設計・計画・提案

4. 施設環境づくり支援プログラムにもとづく実践研究

「認知症高齢者に配慮した施設環境づくり支援プログラム」に沿った施設環境づくりの介入研究とその評価は22年度の計画であったが、環境づくり前後の評価には1年以上の期間が必要なので、前倒して本年より実践研究を進めた（表6）。以下の環境づくり実践は、リーダー養成研修や基礎研修を踏まえて、発展したものである。

(1) 新規に取り組んだ施設環境づくり

練馬区社会福祉事業団の大泉・富士見台・関町・田柄の4特養において、6ステップのプログラムに沿った実践研究を行った。取り組みのプロセスの分析を行い、さらにより良い施設環境づくりプログラムに向けて検討中である。また、環境づくり前後の職員の反応を「多面的施設環境評価尺度」や「PHRF ストレスチェックリスト」で、認知症高齢者の行動変化を「環境づくりの効果に関する調査表」で把握を行い、環境づくりの効果の検証を進めている。

熊本における施設環境づくりは、久留米大学浜崎研究室と熊本県益城郡グループホーム等部会の支援により、基礎研修に参加した施設において進行中である。

台湾における環境づくりは、日本で実施した施設環境づくりリーダー養成研修への国立雲林科技大学曾准教授の参加、児玉らによる台湾における入門研修の実施等を経て、日本の研修資料を活用して、嘉義市にあるキリスト教病院附属ナーシングホームおよび天主教聖馬爾定病院附属ナーシングホームで実践が進んでいる。

表 6 現在進行中の施設環境づくり実践研究の概要

施設環境づくり実践		取り組みと支援の概要
新規	練馬区社会福祉事業団施設環境づくり 2009.4～2011.3	大泉・富士見台・関町・田柄の4特養において、6ステップの施設環境づくり支援プログラムに沿った介入研究を実施。
	熊本県における施設環境づくり 2010.3～継続	施設環境づくりリーダー研修に参加した特養・グループホームで実施。久留米大学浜崎研究室と連携。
	台湾に置ける施設環境づくり 2009.11～継続	施設環境づくりリーダー研修に参加した国立雲林科技大学曾准教授により、嘉義市にあるキリスト教病院附属ナーシングホームおよび天主教聖馬爾定病院附属ナーシングホームで実施。
継続	多摩済生園の施設環境づくり (東京都小平市) 2009.4～継続	多摩済生園は2005年のプロジェクト参加施設である。ユニット型新棟の環境づくりを支援。
	マザアス東久留米の施設環境づくり (東京都東久留米市) 2009.4～継続	2003年より連携して施設環境づくりを進めている。ユニット化改修後の環境の活用を支援。
	新宿区社会福祉事業団かしわ苑の施設環境づくり 2009.4～継続	2007年よりかしわ苑は、施設環境づくりマニュアルを活用して独力で実施してきた。ショートステイにおける施設環境づくりを支援。
	名古屋市老健施設かいこうの施設環境づくり 2009.4～継続	2006年より、PEAPを活用した施設環境づくりに独自に取り組む。豊田工専加藤研究室と連携して、多職種で進める施設環境づくりとその継続を支援。

新規は、本共同研究により取り組んだ施設。

(2) 施設環境づくりへの継続的支援

施設環境づくり支援プログラムは、現場の工夫を取り入れながら発展してきた。現在、下記の特徴のある施設環境づくりの支援を行っている。

多摩済生園は、2005年の施設環境づくりプロジェクト参加施設である。近年、新設したユニットの環境の活用を支援している。マザアス東久留米は、2003年よりケアの改善に取り組み、従来型施設のユニット化改修を行った。ユニットの環境を活かしたケアの取り組みへの支援を行っている。かしわ苑は、施設環境づくりマニュアルを参考にショートステイの環境づくりを進めてきた。ショートステイから施設全体への環境づくりを支援している。名古屋市にある老健施設かいこうではPEAPを用いたケアの見直しに長年取り組んできた。老健の特徴である多職種と進める環境づくりの継続的な実践について、支援を行っている。

Ⅲ. 主な成果の発表

本研究に基づき発表した主な成果は以下のようである。

〈著書〉

- 1) 児玉桂子：認知症ケアのための施設改善の手法と実践、日本建築学会編「認知症ケア環境事典」、ワールドプランニング、35-50、2009.5
- 2) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・下垣光：PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル、中央法規、1～174、2010.8

〈論文〉

- 3) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・秋田剛：特別養護老人ホーム改修における環境心理的調査の活用、日本建築学会大会学術梗概集、133～136、2009.8
- 4) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・大久保陽子：従来型特養のユニット化改修支援プログラム—マザアス東久留米での試み—、地域ケアリング、Vol.11、No.14、10-19、2009.12
- 5) 古賀誉章・湯浅豪：馴染みの関係を支える施設環境づくり—かみさぎホームでの取り組み—、地域ケアリング、Vol.11、No.14、20-29、2009.12
- 6) 下垣光・鍛川薫：グループホームにおける環境づくり—グループホームみんなの家・宮原での取り組み—、地域ケアリング、Vol.11、No.14、30-36、2009.12

〈学会発表〉

- 7) 沼田恭子・児玉桂子・古賀誉章・大久保陽子：従来型特別養護老人ホームのユニット化改修とその効果（その1）—ユニット化改修円滑化支援—、第10回日本認知症ケア学会、2009.10
- 8) 児玉桂子・沼田恭子・古賀誉章・大久保陽子：従来型特別養護老人ホームのユニット化改修とその効果（その2）—多面的施設環境評価尺度によるユニット化前後の比較—、第10回日本認知症ケア学会、2009.10

〈新聞や雑誌の連載〉

- 9) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子他：環境は変えられる—マザアス東久留米5年の実践—（1）～（6）、シルバー新報、2009.8～10
- 10) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子他：認知症の人の暮らしを支える環境づくり（1）～（12）、おはよう21、2010.10～2011.9

〈講演活動〉

- 11) 児玉桂子：PEAPを活用した施設環境づくりの理論と実践、台湾高雄県政府社会局・国立雲林科技大学、高雄市、2009.9.18
- 12) 児玉桂子：PEAPを活用した施設環境づくりの理論と実践、国立雲林科技大学・行政院国家科学委員会、国立雲林科技大学、2009.9.19
- 13) 児玉桂子：PEAPを活用した施設環境づくりの理論と実践、社団法人台湾アルツハイマー協会・内政部・国立雲林科技大学、台北市、2009.9.22
- 14) 児玉桂子：人にやさしい施設環境づくり、名古屋市社会福祉協議会、名古屋市、

2009.11.16

15) 児玉桂子：認知症ケアを助ける施設環境づくり、栃木県医師会、宇都宮市、2009.11.29

注

執筆者以外の共同研究者と研究協力者は下記の通りである。

森一彦（大阪市立大学）、浜崎裕子（久留米大学）、加藤悠介（豊田工業高等専門学校）、杉山匡（ストレス科学研究所）、小島隆矢・大島千帆（早稲田大学）、足立啓（和歌山大学）、曾思瑜（台湾国立雲林科技大学）、大島巖（日本社会事業大学）、大久保陽子（ケアと環境研究会）、廣瀬圭子（日本社会事業大学）

文献

- 1) 主任研究者児玉桂子：認知症高齢者への環境支援指針（PEAP）を用いた施設環境づくり実践ハンドブック（Part1）、日本社会事業大学児玉研究室、1～24、2004.3
- 2) 日本認知症ケア学会特別重点研究「認知症ケアのための施設環境づくり」プロジェクト＋日本建築学会認知症ケア環境小委員会：同実践ハンドブック（Part 2）－事例からみた取り組みの工夫－、日本社会事業大学児玉研究室、1～36、2005.4
- 3) 同：同実践ハンドブック（Part 3）－ワークショップ：環境への気づきを共有する－、日本社会事業大学児玉研究室、1～23、2005.10
- 4) 同：同実践ハンドブック（Part 4）－施設環境づくりプログラムによる実践とその評価－、日本社会事業大学児玉研究室、1～24、2007.9
- 5) 児玉桂子・古賀誉章・沼田恭子・下垣光：PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル、中央法規、1～174、2010.8